





# 令和のコメ騒動はなぜ起ったのか。

「コメの現代史をひもとぎながら農と食の今」これまで「これから」を考える

## ※農業の全般的危機を分析する

あらゆる矛盾が農業問題に押し寄せている。複合矛盾と言ったらよいのか。とりあえず、基本矛盾として五つを考えてみた。重なり合う五大矛盾を解く方程式とはいかないものか。政府は従来に引き続いてより大規模化し、最新のAI技術で武装化した農業を目指している。この方向が諸矛盾の連鎖にどこまで通じるのか、いろいろ考えなければいけないことがある。まずはそのための序説、矛盾の連鎖をときほこし、これから考える視座と論点を考える。どんな矛盾が何を引き起こしているかを整理してみたい。(大野和興)



石破首相は8月5日、これまでの農政を転換し「コメ増産を宣言した」。

そして高市政権に変わり、一転して「コメは誰かを守らせて生産しおこす市場に任せるといふ政策に転換した。クルクル変わる農業政策に農民は翻弄され、消費者の現場では高騰したコメが食べられないという状況が広がっている。

政府の政策はコスト削減に取り組み大規模経営しか対象にならず、水田面積のおよそ半分を耕すヘクタール未満の中小規模農家はコスト重視の政策対象から切り捨てられしむ。

その一方で全体的な貧困が社会を覆う。今回の米価高騰の原因はコメの生産不足にあることを政府も認めるを得ず。

「市場化」その上にかかっている

「第2の矛盾」

「第3の矛盾」

「第4の矛盾」

### 第1の矛盾

【生産力脆弱化】農業生産に携わる人がいなくなり、土地が捨てられていく問題が顕著である。農業の生産力そのものが解体の危機に瀕しているという根本問題が目の前に横たわっている。

令和の米騒動といわれる今回の米価高騰の原因はコメの生産不足にあることを政府も認めるを得ず。

第二次世界大戦後の国際経済秩序を作ってきた柱のひとつGATT(貿易関税に関する一般協定)が最後のラウンドであるウルグアイラウンドを最後に閉じられ、WTO(世界貿易機関)に道をゆずった1995年自由貿易を阻害する制度とされた食糧法は廃止され、新しい食糧法にもとめ裁制制度に市場化が進められる。

コメ小売にスーパーが進出し、街のお米屋さんを姿を消し、即ち統合的「コメ流通」は寡占化して情報のブラックボックス化が進んだ。生産側では集出荷が多様化分散化して、農協の統制が効かなくなった。

戦後のこの国の食料秩序を食料管理法(以下、食糧法)によって担われてきた。

第二次世界大戦後の国際経済秩序を作ってきた柱のひとつGATT(貿易関税に関する一般協定)が最後のラウンドであるウルグアイラウンドを最後に閉じられ、WTO(世界貿易機関)に道をゆずった1995年自由貿易を阻害する制度とされた食糧法は廃止され、新しい食糧法にもとめ裁制制度に市場化が進められる。

これが第2の矛盾

これが第3の矛盾

これが第4の矛盾

### 第2の矛盾

「市場化」その上にかかっている

第二次世界大戦後の国際経済秩序を作ってきた柱のひとつGATT(貿易関税に関する一般協定)が最後のラウンドであるウルグアイラウンドを最後に閉じられ、WTO(世界貿易機関)に道をゆずった1995年自由貿易を阻害する制度とされた食糧法は廃止され、新しい食糧法にもとめ裁制制度に市場化が進められる。

これが第2の矛盾

これが第3の矛盾

これが第4の矛盾

これが第5の矛盾

これが第6の矛盾

これが第7の矛盾

これが第8の矛盾



米国の11月実施された東部2州知事選とニューヨーク(NY)市長選で、いずれも民主党候補が勝利した。昨年来大統領選挙いざいざでもトランプに完敗した民主党にとって久しぶりの雪辱だが、注目はNY市長に当選したブライアン・マムダニ氏だ。これまで地道に「民主社会主義」の理念を掲げてきたB・サンダース上院議員(無所属)を強く信奉する1991年生れでイスラム教徒でもある同氏。6月にはNY市長選挙に向けた民主候補準備選で前市長ケオモ氏を破り、無名ながらそれからわずか半年にして奇跡の大勝利を遂げ、今や「トランプ打倒」に燃える米国民の新しい灯になろうとしている。

## 34歳・米民主党の若きホープ・マムダニNY市長

当初は無名で支持率は高くなかったマムダニ氏だが、就職難や物価上昇に苦しむNY市民の共感を集めたのは、同氏の「生活第一」のメッセージだった。

政府補助金付き食品店の設置や、生活に密着した政策を訴えて支持率を上げ、11月4日の本選挙で共和候補や無所属立候補のクオモを破り当選。

史上初のムスリムにして初のNY市長になった。マムダニ氏の勝利がこれほど注目されたのは、その

選挙戦略がトランプ、共和党打倒を目指す民主党にあって新たな切り札となる可能性を秘めているから

米国の中道左派系政治団体の報告によると、2024年大統領・議会選挙での民主党の敗因として「文化的リベラリズムに偏りすぎ」経済や生活と

いう有権者の最大関心事をあまりに軽視した点にあるとしていた。

「アナタの痛みは、私の痛み」徹底した草の根活動から

「マムダニの旗」が吹雪いた。マムダニ氏が民主主義の牙城である米国ニューヨークに、その資本主義打倒を標榜する「民主社会主義左派」の若きホ

### ①「生産力脆弱化」

【貧困化】第三の矛盾は、町にも村にも広がる貧困化という現実である。農業という営みは、生産し出荷したら終わりというものでない。それを買い、食べて貰わないと生産をしない。

### ②「市場化」

コメ小売にスーパーが進出し、街のお米屋さんを姿を消し、即ち統合的「コメ流通」は寡占化して情報のブラックボックス化が進んだ。

### ③「貧困化」

戦後のこの国の食料秩序を食料管理法(以下、食糧法)によって担われてきた。

### ④「国際化」

第二次世界大戦後の国際経済秩序を作ってきた柱のひとつGATT(貿易関税に関する一般協定)が最後のラウンドであるウルグアイラウンドを最後に閉じられ、WTO(世界貿易機関)に道をゆずった1995年自由貿易を阻害する制度とされた食糧法は廃止され、新しい食糧法にもとめ裁制制度に市場化が進められる。

### ⑤「地球化」

これが第2の矛盾

### 国際短信

ロシア、ドンス地方85%掌握 ウクライナ戦争終結?...米口協議

12月5日「BBC」ほか、ロシア大統領は4日、ロシアの領土と主張するウクライナ東部ドンス地方について、ウクライナ軍が撤退し、ウクライナが同地域を掌握すると宣言し、米口協議は途切れた。

また、ウクライナの戦争終結に関する米口協議は、米口協議は途切れた。

## 「民主社会主義」USAの新しい旗!

マムダニ氏の選挙戦略は、その反省を踏まえた、多くの貧困層・底辺労働者への草の根の訴えの実践だった。

「マムダニの旗」が吹雪いた。マムダニ氏が民主主義の牙城である米国ニューヨークに、その資本主義打倒を標榜する「民主社会主義左派」の若きホ

World News REVIEW 世界潮流 ワールドニュース レビュー・最新レポート

当初は無名で支持率は高くなかったマムダニ氏だが、就職難や物価上昇に苦しむNY市民の共感を集めたのは、同氏の「生活第一」のメッセージだった。

政府補助金付き食品店の設置や、生活に密着した政策を訴えて支持率を上げ、11月4日の本選挙で共和候補や無所属立候補のクオモを破り当選。

史上初のムスリムにして初のNY市長になった。マムダニ氏の勝利がこれほど注目されたのは、その

選挙戦略がトランプ、共和党打倒を目指す民主党にあって新たな切り札となる可能性を秘めているから

米国の中道左派系政治団体の報告によると、2024年大統領・議会選挙での民主党の敗因として「文化的リベラリズムに偏りすぎ」経済や生活と

いう有権者の最大関心事をあまりに軽視した点にあるとしていた。

「アナタの痛みは、私の痛み」徹底した草の根活動から

「マムダニの旗」が吹雪いた。マムダニ氏が民主主義の牙城である米国ニューヨークに、その資本主義打倒を標榜する「民主社会主義左派」の若きホ

「マムダニの旗」が吹雪いた。マムダニ氏が民主主義の牙城である米国ニューヨークに、その資本主義打倒を標榜する「民主社会主義左派」の若きホ

